

《窓》

通常どんな部屋にも「窓」がある。窓がなければ光が入らず、暗くなる。だから窓のない部屋は特別な部屋と思ってまず間違いはない。窓を通して明かりを取り入れたり、窓を開けて換気させたり、窓を媒介にして家の内外の空気が還流し世間とのコミュニケーションも図れるのである。「ロミオとジュリエット」に偲ばれるとおりである。

「窓」は家の中に住む人々の生活の鑑であり、文化でもある。その形状も千差万別である。従って環境、民族、風習、宗教等によって「窓」にもその独特の差や違いが表れる。自然環境の異質性は、南方地方の人々の家の窓と、北方の人々のそれを見てみればはっきり分る。前者には寒さへの対策などまるでなく、後者には暑さへの備えはほとんどない。同じ気候帯に住む人々の間でも、民族や宗教、風習が異なれば自ずと窓の造作は異なる。それは大きかったり、小さなものであったりするし、材質にもその差が表れる。

オランダの家屋では道路に面した窓に、大きな一枚ガラスをはめ込んだ家はかなり見られる。家族が食事をしている光景を通りから目にもすることもしばしばである。通行人が手を振ると家族が応える微笑ましいシーンも見られる。合理的なドイツには窓ガラスを上下にも、左右にも開閉できるよう窓の構造が細工されていて、効率的で利便性もある。それが、極寒のシベリア地方に行くと丸太小屋風の家小さな窓をびたっと閉め、明かりを外へ漏らすまいとカーテンで目隠しして、室内は外から覗けないほどだ。同時に、室内の温かい空気を外へ逃がすまいと必死に知恵を絞る。室外へ出てくるのは、屋根の上の煙突から湯気のような白い煙だけである。まるで戦時下の灯火管制のようだ。それぞれに定着した経緯とか、生活の知恵があるのだろうが、その前提には誰に見られても恥ずかしくない、家財道具や調度品があることは間違いあるまい。

(近藤)